

ユーグレナ社 SAF「サステオ」継続利用の初事例 アジア航測が自社単発機で2回目の SAF「サステオ」フライトを実施

株式会社ユーグレナ

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充、以下「ユーグレナ社」）は、アジア航測株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長 畠山仁、以下「アジア航測」）が保有・運航するセスナ式208型（登録番号JA11AJ）に、ユーグレナ社の製造・販売するバイオジェット燃料（以下「SAF※1」）「サステオ」を使用し、6月23日にフライトを実施したことをお知らせします。今回使用した機材は、航空測量業界では最も利用されている計測用の単発機で、ユーグレナ社の SAF「サステオ」を同一企業で複数回使用した初事例であり、今後も継続的な利用を予定しています。本フライトは、大阪・八尾空港を発着地とし、和歌山市上空を周回して、約30分間の飛行となりました。

※1 Sustainable Aviation Fuel の略称で、持続可能な航空燃料のことを指す



給油の様子



SAFを使用したフライト

今回のフライトで使用したユーグレナ社の SAF「サステオ」は、原料に使用済み食用油と微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）由来の油脂を使用し、ユーグレナ社のバイオジェット・ディーゼル燃料

製造実証プラントの BIC プロセスにて製造、ASTM D7566 Annex6 規格に合致したものを既存石油系ジェット燃料と混合した、環境負荷の低い燃料です。ユーグレナ社の SAF「サステオ」は、燃料の燃焼段階では CO₂ を排出しますが、使用済みの食用油の原材料である植物も、微細藻類ユーグレナも、成長過程で光合成によって CO₂ を吸収するため、燃料を使用した際の CO₂ の排出量が実質的にはプラスマイナスゼロとなり、カーボンニュートラルの実現に貢献すると期待されています。

なお、今回供給された燃料は、ユーグレナ社が国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の公募事業である「バイオジェット燃料生産技術開発事業/実証を通じたサプライチェーンモデルの構築」の採択を受けて製造したものです。

アジア航測で SAF を使用した運航は、今回で 2 度目となり、今後も継続的に SAF を使用していく予定です。ユーグレナ社は、今後もバイオ燃料「サステオ」の普及を目指します。

<株式会社ユーグレナについて>

2005 年に世界で初めて微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）の食用屋外大量培養技術の確立に成功。微細藻類ユーグレナ、クロレラなどを活用した食品、化粧品等の開発・販売のほか、バイオ燃料の製造開発、遺伝子解析サービスの提供を行っています。また、2014 年よりバングラデシュの子どもたちに豊富な栄養素を持つユーグレナクッキーを届ける「ユーグレナ GENKI プログラム」を継続的に実施。「Sustainability First（サステナビリティ・ファースト）」をユーグレナ・フィロソフィーと定義し、事業を展開。<https://euglena.jp>

以上